

2023年2月9日

志賀原発を廃炉に！訴訟 第39回口頭弁論 意見陳述書

浅村起嘉

私は、2010年5月まで中学校の理科教員をしていました。翌年3月東北地方太平洋沖地震による大津波が福島第一原子力発電所を襲い、水素爆発により原子炉建屋が破壊されて膨大な放射性物質が放出されました。これまでの思いが一変した出来事でした。中学校の理科では、3年生の最後の単元で原子力発電について学びます。放射線の性質や利用、人体への影響なども知ります。また、小松市の中学生は修学旅行で広島に行き、原爆の悲惨さについて資料館を見学したり語り部の話を聞いたりしてきました。莫大なエネルギーは使い方によっては悲惨な結果を招くことを考えてくれたことと思います。原発は事故の危険性や放射性廃棄物の処理の問題などを抱えているけれど、子どもたちの代に続く研究や科学技術の発展によって解決されるという淡い期待を持っていました。しかしながら、この事故によって原発の安全神話は崩れ、人の手による制御は不可能だと認識しました。

この年から2期8年間小松市議会議員を務めました。子どもたちのためにと志した政治の世界に、新たに命と安全という課題が加わりました。そのために原発事故の現地などいろいろなところに行かせていただきました。

福島県では、避難している子どもたちが避難先の地域の学校の校舎の一部を借りて学んでおり、元の学校の先生が遠方の子どもたちの避難先に行って授業を行っている大変な状況がありました。二本松市の保護者の方は、子どもたちが食べる食品の放射線量を自分たちで測って安全を確かめていたり、外で遊べない子どもたちを県外に連れて行って屋外で活動させている話を聞きました。放射線量の高いところで生活している子どもたちにとって、放射能の影響が少ない地域で一定期間滞在する保養によって健康が守られることとなります。小松市でも、2011年の夏休みから福島の子供たちが来て活動する取り組みが続いています。春なども加えると昨年の夏で22回の合宿が行われました。また、これとは別に古民家での家族の受け入れも続いています。

福島の原発事故後にドイツのメルケル首相はいち早く脱原発を打ち出しました。ドイツでは、町全体の暖房システムとして林業による間伐材や樹皮を燃料としたボイラーによるセントラルヒーティングが導入されていたり、住宅地域から離れた農業地域で風力発電を設置するゾーニングが行われていたり、家畜の排泄物をバイオマスエネルギーとして活用したりと、再生可能エネルギーが幅広く活用されており、産業と生活が自然とうまく調和していることを見してきました。ドイツは日本と同じような道を歩みながら、戦争の歴史を子どもたちに伝え、共に考えながら同じ過ちを繰り返さないようにしています。エネルギーについても原発事故での日本の失敗を改める姿勢を感じました。

現在は、いしかわ教育総合研究所で事務局を担っています。その中の環境教育研究部会では「現場でとりくむ環境課題」として、学校での防災教育をテーマとしています。昨年からの珠洲の津波に対する防災について注目していましたが、新型コロナウイルス感染予防のため現地で

の活動を控えていました。そのような中で昨年 6 月 19 日に震度 6 弱の地震が発生しました。地下の流体が原因とのことで、事前に知ることは難しく後になってわかることと感じました。当総研も 11 月に珠洲市でのフィールドワークを少人数で行いました。みさき小学校は海沿いに立地し、校舎 2 階を越える津波が想定されています。地震のときは校舎裏の高台に避難しなくてはなりません。正院小学校も同じですが、地域の方が高台への避難路を整備し住民と共に避難することができます。みさき小では一刻を争う状況であり、日ごろからの訓練が大切になります。足を怪我している子などは間に合わないことも考えられ、あらゆる場面の想定が必要です。子どもたちの命を守るためには、どんなに対策をしてもしすぎることはありません。

石川県原子力防災訓練に参加したことがあります。バスでの避難やスクリーニングの様子を見ましたが、訓練のための訓練という印象を受けました。果たして住民の命を守れるのでしょうか。能登地区の人はどのように思われているのでしょうか。昨年の訓練に合わせてアンケート調査が行われましたが、石川県が発行している「防災のしおり」や避難行動について理解している住民はまだ多くはありません。地震が発生すれば津波が来るものとして訓練が行われているように、原発も重大な事故が起こることとして訓練しなければ命は守れません。

珠洲市の飯田港から能登半島を眺めると、海岸段丘が大きく広がっています。過去の大きな地殻変動によってこの地形が形成されたことが見て取れます。自然のすごさ大地のエネルギーを感じます。志賀原発もこの段丘面上に立地し地下の断層も大きくみればその一部です。地球の歴史を考えれば、これらの活動もわずかな時間の流れになるほど自然は大きく人間は小さく思えます。

これまで自分が体に感じて怖く思った地震が 2 つあります。2007 年 3 月 27 日はこまつドームにいて、テニスの試合中にドームが大きく揺れました。その後、能登地区の中学生は急いで帰ることとなりました。1995 年 1 月 17 日は早朝、机に向かっていたところに揺れを感じました。はじめはテレビをつけても大阪のようすしかわからず、神戸のことは学校に行ってから知りました。この 5 日後に長女が誕生しました。多くの方の命が失われたこと、新しい命を授かったこと、命について少し複雑な思いを抱きました。先月 17 日にも追悼のニュースがありましたが、淡路島の方は、まさかここで地震が起こるとは思ってもみなかったと言っていました。

自然は常に人間が考えることを超えており、自然災害は想定できなかつたところに起こっており、起こってからその原因についてがわかるものです。今、政府は原発政策を大転換して、建設から 60 年を超えた原発も停止期間を運転年数から除外したり、廃炉が決まった原発を建て替えて次世代型原発を建設しようとしています。ロシアによるウクライナ侵攻などによる資源価格の高騰や、それによる電気料金の高騰などエネルギーを巡る状況が様変わりしたとしても、人間の都合に自然は合わせてくれません。私たちの命に優先するものはありません。

提訴から 10 年以上が経ちました。1 日も早く志賀原発を廃炉にする判決を求めて意見陳述とします。